

# 『スポーツと開発』

## <講義概略>

講師：友成晋也

スポーツや音楽、美術、演劇（以下「芸術」）などの文化的な活動は、開発問題の中で取り上げられることは少ない。一般的には、それらは国際交流のツールとしてとらえられているのが現状である。実際、開発問題に取り組むODA実施機関JICAにおいてさえ、スポーツや芸術を扱っているのは青年海外協力隊事業でスポーツ・文化分野の協力隊員を募集、派遣している程度である。しかも、途上国にとっての重点課題ではないとの理由で、その事業規模は年々縮減しているのが現状である。スポーツや芸術が単なる「娯楽」と考えられている限り、その位置づけは開発問題ではますます軽視されていくであろう。

しかし、スポーツ（あるいは芸術）が人間社会で果たしている役割は大きい。オリンピックやワールドカップだけでなく、さまざまなスポーツが世界の至るところで感動を生み、人々に生きがいを与えている。スポーツは世界中の人々の心の内面、あるいは人生そのものにとって大きな存在となっている。

開発問題は、つまるところ、人権問題と環境問題である。その一方で人間が生きていくために最低限必要なものは、いわゆるBHN（ベーシック・ニューマン・ニーズ）であることは自明の理。しかし、BHNが満たされれば人間は幸福といえるのか。

ただ生きるためだけでなく、人間が、人間らしく生きるために、スポーツが開発問題の中で果たせる役割がある。

JICAの現役職員でありながら、ガーナ・ナショナル野球チームの監督を務め、オリンピック出場を目指す中で、ガーナの人々と感動を分かち合い、さらに帰国後NPO法人アフリカ野球友の会を設立し、スポーツを通じ、主にアフリカ地域に人々と日本を結びつけ、さまざまな取り組みを実践してきた講師が、「スポーツと開発」をテーマに、スポーツが果たせる役割や課題を講義する。

## <講義の柱>（予定）

### 1. スポーツと開発

～ナショナル野球チームの監督業を通じて気づいたスポーツの役割

### 2. スポーツがもつ可能性

～開発におけるスポーツの力を考える

### 3. 開発におけるスポーツ事業の試み

～NPO法人設立による社会貢献活動の実践例と課題

### 4. 「スポーツと開発」取り組みの課題

～スポーツを通じた持続可能な開発のために

以上